

# 社会的な見方や考え方を養う小学校社会科学習指導に関する研究 — 小学校第5学年「情報化した社会の様子」の授業構成を通して —

【研究者】 教科教育部 指導主事 村田 耕一

【研究指導者】 安田女子大学心理学部 教授 片上 宗二

【研究協力員】 東広島市立寺西小学校 教諭 秦 洋司

## 研究の要約

本研究では、社会的な見方や考え方を養うための効果的な社会科学習指導の工夫を明らかにすることを目的とする。文献研究から、社会的な見方や考え方を、社会的事象の本質や関連を見いだすための概念的な枠組みと捉えた。社会的な見方や考え方を養うためには、問題解決的な学習に加えて、再構成する学習など、児童の解釈を深める学習の工夫が必要なが分かった。そこで、児童の解釈を深める学習を「新たな見方を示し再構成する学習」と「別事象を取り上げて再構成する学習」の二つの学習に整理し、その学習を取り入れた問題解決的な学習の学習過程モデルを開発した。検証授業では、児童は学習過程モデルに沿った学習を通して、自分の解釈を再構成しながら、より質の高い解釈ができるようになり、社会的な見方や考え方を成長させることができた。

キーワード：社会的な見方や考え方 再構成する学習

## I 研究の目的

中央教育審議会答申（平成20年）の社会科、地理歴史科、公民科の改善の基本方針では、「社会的事象に関心をもって多面的・多角的に考察し、公正に判断する態度を養い、社会的な見方や考え方を成長させることを一層重視する方向で改善を図る。」<sup>1)</sup>と示されている。そして、上記の基本方針を踏まえ、改善の具体的事項として、「学習や生活の基盤となる知識・技能の習得」を図るとともに、「観察・調査したり、各種の資料から必要な情報を集めて読み取ったりしたことを的確に記録し、比較・関連付け・総合しながら再構成する学習や考えたことを自分の言葉でまとめ伝え合うことによりお互いの考えを深めていく学習の充実を図る。」<sup>2)</sup>と、再構成する学習などの新しい学習活動についても示されている。

しかし、小学校学習指導要領解説社会編（平成20年）（以下「小解説」とする。）には、社会的な見方や考え方について、詳細には述べられていない。

授業改善を進めていくためには、どのような社会的な見方や考え方を養えばよいのか明らかにする必要がある。

そこで、本研究では、中学校学習指導要領解説社会編（平成20年）（以下「中解説」とする。）などを参考にして、小学校段階でどのような社会的な見方や考え方を養えばよいのかを明らかにする。そし

て、その見方や考え方を養うために、稿者が平成23年度教員長期研修で開発した構造化された知識を位置付けた問題解決的な学習の学習過程モデルを活用した授業モデルを開発する。

本研究は、次のような手順で進めていく。

- ①小学校第5学年「情報化した社会の様子」の単元において、学習内容を構造化された知識として整理する。
- ②再構成する学習を取り入れた問題解決的な学習の授業モデルを開発し、研究協力校にて検証授業を実施する。
- ③検証授業の分析・考察を行い、開発した授業モデルの有効性を検証する。

研究の手順

## II 社会的見方や考え方を養うことについて

### 1 社会的な見方や考え方とは

中解説には、現代社会を捉える見方や考え方について、「『見方や考え方』とは、現代社会の社会的事象を読み解くときの概念的枠組みと考えることができる。」<sup>3)</sup>と述べられている。

大杉昭英（2000）は、社会的事象を捉える見方

や考え方を、図 1 のように示している。そして、「見方や考え方」＝「概念的枠組み」を「レンズ」とし、「光源」を生徒の分かりたいという意欲と述べ、「見方や考え方」である「レンズ」の精度が高いほど、社会的事象である A、B、C の本質やそれぞれの関連を捉え、その意味や影響を見いだし、現実をよりの確に捉えることができると説明している<sup>(1)</sup>。

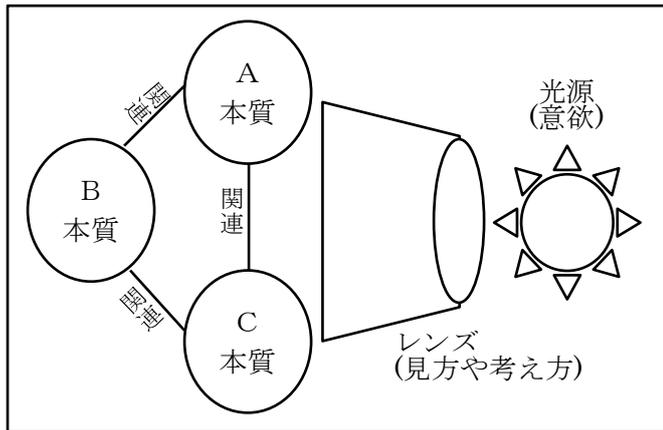


図 1 社会的な見方や考え方のイメージ図

社会的事象の本質や関連について、小学校においても、社会的事象の意味などについて考える力を育てるようにすることとして示されている。

これらのことから、社会的な見方や考え方とは、社会的事象の本質や関連を見いだすための概念的な枠組みと考えることができる。

## 2 社会的な見方や考え方を養うには

岩田一彦 (2001) は、「問題を把握し、予想や仮説を立て、資料収集や調査をして、検証していく過程が必要なのである。この過程を経て初めて、社会を見る目になり得る概念装置が育っていく。」<sup>(4)</sup>と述べている。

また、小解説には、「児童一人一人に社会的な見方や考え方が養われるよう、社会的事象を比較・関連付け・総合して見たり考えたり、社会的事象を空間的、時間的に理解したり、公正に判断したり多面的に捉えたりすることが大切である。」<sup>(5)</sup>と述べられており、問題解決的な学習の重要性に加えて、児童の解釈を深める学習の工夫についても言及されている。

子供が社会的な事象を見るとき、自分の既存の知識やこれまでの体験を基に自分なりの概念装置を通して解釈を行う。この解釈は、個々によって異なり、

深いものもあれば、浅いものもある。社会的見方や考え方を養うためには、自分なりの解釈を吟味、検討し、再度解釈し直すこと、すなわち、再構成を行いながら、より質の高い解釈ができるようになることは大切だと考える。

これらのことから、本研究では、社会的な見方や考え方を養うために、再構成する学習を取り入れた問題解決的な学習をすすめていくこととする。

## III 単元開発の基本的な考え方

本研究では、これまで述べてきたことを踏まえて、再構成する学習を取り入れた問題解決的な学習の授業を開発することとする。

具体的には、小学校第 5 学年「情報化した社会の様子」の単元を取り上げて、授業を開発する。この単元を取り上げるのは、第 5 学年の内容 (4) 「情報化した社会の様子と国民生活とのかかわり」には、社会生活の実態やそれを踏まえた国民の主体的情報活用の内容が打ち出されており、自分たちの生活との関わりをより深く扱う内容となっており、社会的な見方や考え方を養うのに適していると考えたからである。ここでは、本単元を開発する基本的な考え方について述べる。

### 1 再構成する学習について

再構成する学習について、片上宗二 (2008) は、「再構成とは、学習問題の再構成、解釈や考え方の再構成などを指すと考えられる。」<sup>(6)</sup>と述べている。

本研究では、再構成を片上が述べている解釈や考え方の再構成と捉えて、研究を進めることとする。具体的には、児童が授業の中で得た解釈に新たな見方を示し再構成させることと、社会的事象を通して学んだ見方や考え方をを用いて別の事象を取り上げて考え方を再構成させることとする。

#### (1) 新たな見方を示し再構成する

授業において、質の良い問いをもつためには、一定の知識が備わり、社会的事象の見方が分かっていることが大切である。しかし、子供たちにそのような見方が備わっていない場合、見方や考え方の成長は望めない。

電子カルテを取り上げた授業を事例にして説明する。これまでのスタンダードな授業では、導入場面で、「〇〇病院では、情報をどのように活用しているのか。」という学習課題を設定し、その課題を追究する中で、電子カルテの良さを見いだし、病院側の工夫や努力をつかんでいく展開が多く見られた。

しかし、この展開では、児童の社会的見方や考え方は、病院側の工夫や努力といった主観的な捉え方にとどまる傾向があり、それ以上の成長は望めない。

そこで、本研究では、「価格や費用」という新たな見方を示し、児童の解釈を再構成させることとした。現実社会を見ていくとき、公共サービスであっても、経済的な視点は必要となる。この視点をもつことで、より深く社会を捉え、考えることができるようになり、社会的な見方や考え方を深めることができると思う。実際の授業については後段で述べる。

## (2) 別の事象を取り上げて再構成する

森分孝治(1984)は、「社会的見方考え方は、社会を解釈し説明するために、その人がもつ『法則』であり、『理論』である」<sup>7)</sup>と述べ、その法則や理論を用いて新たな事象を説明することによって、社会的な見方や考え方を成長させることができている。

本単元で取り上げた事象を用いて説明すると、医療情報ネットワークを学習の中で身に付けた法則や理論、言い換えると、社会的な見方や考え方をを用いて、新しい事象である防災情報ネットワークを見ていく。具体的内容を、先程述べた電子カルテの授業を用いて説明する。電子カルテの授業で、「医療情報ネットワークの進展は、質の高い医療の実現を可能にしたり利便性を高めたりするなど、私たちの生活に大きな影響を及ぼしている。」といった見方や考え方を身に付ける。この身に付けた見方や考え方をを用いて、防災ネットワークを見ていく。すると、防災ネットワークが私たちの安全な生活を守ることにつながっていることを捉えることができる。しかし、災害はいつどのような形で起こるか分からないため、そのネットワークが万全のものではないことに気付く。また、これまでの学習で身に付けた「価格や費用」面から考えると、非常事態の対策のために多くのお金をかけて万全なものをつくることはできないことにも気付く。そこで、自分たちも地域に住む一員として進んで行動することの大切さに気付くようになる。

このように、別の事象を取り上げて再構成することで、児童の社会的な見方や考え方を深めていくのである。

## 2 再構成する学習を取り入れた問題解決的な学習について

稿者は、平成23年度教員長期研修において、学習

内容を構造化された知識として整理した上で、問題解決的な学習を取り入れた授業構成にすれば、社会的な事象の特色や相互の関連などについて考える力を育てることができることを明らかにし、問題解決的な学習の学習過程のモデルを開発した<sup>(2)</sup>。

本研究では、開発した学習過程のモデルに、再構成する学習を取り入れたモデルを開発する。そのモデルを図2に示す。

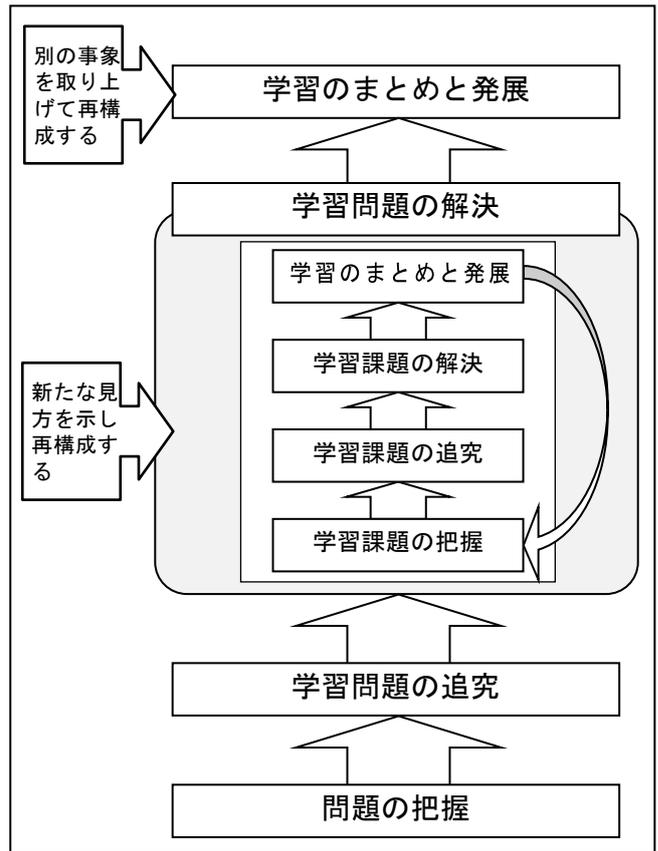


図2 再構成する学習を取り入れた学習過程モデル

「学習問題の解決」では、教師は、知識の構造図を基に、児童が獲得した記述的知識に対して、「なぜ」と問いかけ、学習課題を設定する。そして、獲得した記述的知識を基に話し合いを行い、学習課題を解決していく。この学習の中に、教師は新たな見方を示し、見方や考え方を深めさせていく。

「学習のまとめと発展」では、学習で分かったことや単元を貫く学習問題に対する自分の考えを言葉や文章、図で表現したり、別の事例を取り上げて学習を行ったりする。ここでは、これまで身に付けた見方や考え方をを用いて、別の事例を取り上げて学習を進めていく中で、見方や考え方を深めさせていく。本単元の学習内容を構造化された知識として整理した知識の構造図を図3に示す。

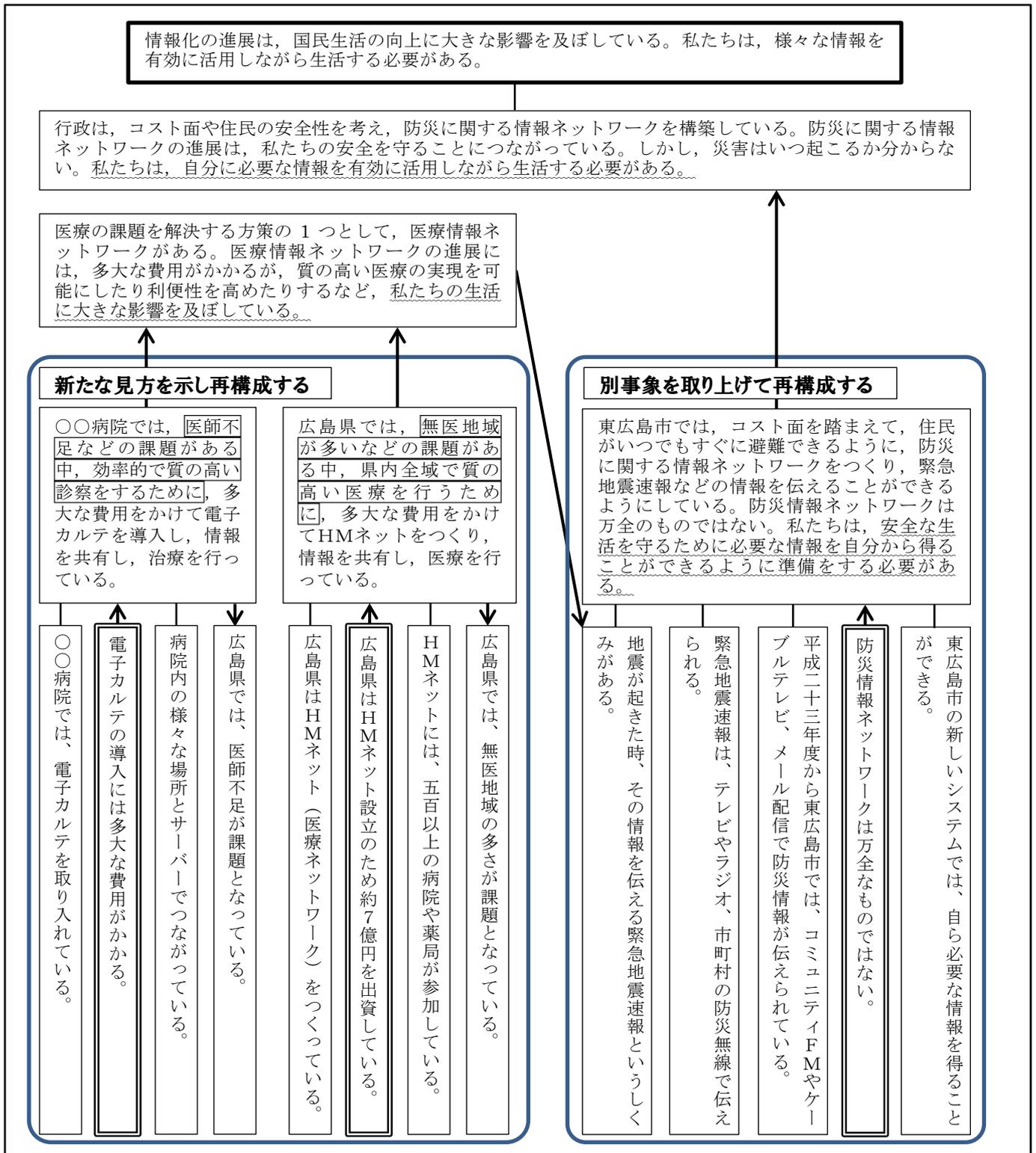


図3 知識の構造図

#### IV 小学校第5学年「情報化した社会の様子」の授業の実際

##### 1 単元「情報化社会を生きる」の概要

○授業者：東広島市立寺西小学校  
教諭 秦 洋司

○対象：第5学年4組

○単元名：「情報化社会を生きる」

○本時のねらい

身の回りにある情報ネットワークの利便性を考えることを通して、情報化の進展は、国民生活の向上に大きな影響を及ぼしていること、そして、私たち

は、様々な情報を有効に活用しながら生活する必要があることを理解することができる。

## 2 単元「情報化社会を生きる」の展開

本単元を構成するに当たり、取り上げる社会的現象は児童に身近であり、児童自身が進んで追究できることを重視して設定した。本単元は、問題解決的な学習の学習過程で構成する。

実際に行った授業を例に挙げ述べていく。

第1・2時の「問題の把握」では、東広島市内にある市立図書館を取り上げ、インターネットを用いて図書館の本の予約ができることを体験させる中で、身の回りにある情報ネットワークに興味をもたせ、「私たちは、暮らしの中でどのように情報ネットワークを利用しているのだろうか。」という単元を通して考えていく学習問題を設定する。その後、学習問題を追究する方法を明確にし、問題解決への見通しをもつ。

第3時の「学習問題の追究」では、学習問題を解決するために、自分たちが考えた方法に沿って必要な資料を収集・選択する。ここでは、インターネットや資料から必要な情報を読み取る活動などを通して、多くの情報を収集し、その情報を分類・整理する中で、身の回りの情報ネットワークに関する記述的知識を獲得する。

第4・5時の「学習問題の解決」では、教師は、知識の構造図を基に、児童が獲得した記述的知識に

対して「なぜ」と問いかけ、学習課題を設定する。第4時では、東広島市内で電子カルテを取り入れている病院を取り上げ、「多くの費用がかかるのに、なぜ電子カルテを取り入れているのか」という疑問をもたせ、その課題を追究する中で、医師不足など課題を抱える中で、少ない人数で質の高いサービスを提供するための病院の工夫や努力を捉えさせる。第5時では、広島県内の情報医療ネットワークである「HMネット」を取り上げ、「多くの費用がかかるのに、なぜ、広島県は『HMネット』を作ったのだろうか。」という疑問をもたせ、その課題を追究する中で、県内全域で質の高いサービスを提供するための広島県の取組を捉えさせる。複数の学習課題を解決する中で、「医療に生かされる情報ネットワークの進展には、多大な費用がかかるが、質の高い医療の実現を可能にしたり利便性を高めたりするなど、私たちの生活に大きな影響を及ぼしている。」といった見方や考え方を身に付ける。

第6時の「学習のまとめと発展」では、これまでの学習で身に付けた見方や考え方をを用いて、他の事例について考えていく。ここでは、東広島市の防災ネットワークを取り上げ、「なぜ、東広島市では、今までの防災行政無線を廃止し、新しいシステムを導入したのだろうか。」という課題を追究していく。児童は前時までに身に付けた見方や考え方をを用いて、課題解決に向けた話し合い活動を行う中で、社会的な見方や考え方を深めていく。

表1 単元の構成（全6時間）

	学習活動	評価規準（評価方法）
1	普段の生活や教科書の挿絵から、自分たちの暮らしの中で、情報をどのように活用しているのかを調べる。	自分たちの身の回りでは、どのように情報を活用しているのかについて意欲的に調べようとしている。 (発言、ノート) 【関心・意欲・態度】
2	身近にある情報ネットワークについて調べる中で、情報ネットワークに興味をもち、学習問題をつくり、学習計画を立てる。	学習問題をつくり、調べる計画を考えている。 (発言、ノート) 【思考・判断・表現】
3	自分たちの暮らしの中で、情報ネットワークがどのように活用されているのかについて、資料やインターネットを用いて調べる。	資料やインターネットを活用して、情報ネットワークについて調べている。 (ノート) 【技能】
4	病院内の情報ネットワークについて調べ、電子カルテの利便性について考える。	病院では、少ない人数でよりよい治療を行うために、電子カルテを導入していることを考えている。 (発言、ノート) 【思考・判断・表現】
5	病院とその他の関係機関の情報ネットワークについて調べ、医療ネットワークの利便性について考える。	広島県では、県内全域で、質の高い治療していくために、大きな病院を中心に医療ネットワークをつくり、情報を共有していることについて考えている。 (発言、ノート) 【思考・判断・表現】
6	医療の情報ネットワークで学んだことを基に、防災や災害に関する情報ネットワークの利便性について考える。	東広島市の取組や災害の発生状況を踏まえて、自分たちがどのように情報ネットワークを活用していけばよいのかを考えている。 (発言、ノート) 【思考・判断・表現】

### 3 新たな見方を示し再構成する事例（第4時）

本時のねらいは、「資料を基に話し合うことを通して、病院では少ない人数でよりよい治療をするために電子カルテを導入していることを考えることができる。」と設定する。

導入では、前時の学習を想起させ、病院でも情報ネットワークを活用していることをおさえる。その後、電子カルテを提示し、紙カルテと比較しながら、電子カルテの良さについて紹介する。その時に合わせて、電子カルテ導入にかかる費用についても触れる。そして、電子カルテを導入するために、多額の

費用がかかるのに、なぜ、東広島市の〇〇病院では、電子カルテを導入しているのかという認知的不協和を生じさせ、児童の意欲を喚起させ、学習課題を設定する。

展開では、電子カルテの良さを紹介するVTRや自作資料から電子カルテの良さを捉えさせる。そして、「価格や費用」の視点を取り上げ、病院が医師不足などの課題を抱える中で、少ない人数でよりよい治療を行おうとする病院側の工夫や努力を捉えさせる。表2に第4時の授業構成を示す。

表2 第4時「病院の情報ネットワーク」の授業構成

学習活動	指導上の留意事項	評価規準 (評価方法)
1. 電子カルテとはどのようなものなのかを知る。  2. 東広島市の防災ネットワークについて知る。	<ul style="list-style-type: none"> <li>○児童が調べた身近にある情報ネットワークの中から、病院現場で使われている情報ネットワークを取り上げる。</li> <li>○電子カルテを提示し、紙カルテと比較しながら、電子カルテの良さについて紹介する。</li> <li>○電子カルテのシステムを導入するために、多くの費用がかかること、それを導入している病院が身近にあることを知らせ、本時の学習課題につなげる。</li> </ul>	
<div style="border: 1px solid black; padding: 5px; display: inline-block;"> <b>学習課題</b>            電子カルテを導入するには多くの費用がかかるのに、なぜ、〇〇病院では、電子カルテを導入しているのだろうか。         </div>		
3. 学習課題に対する自分の考えを書く。  4. 電子カルテを導入するメリットについて、資料から調べ、話し合う。  5. 「価格や費用」の視点で考え、話し合う。	<ul style="list-style-type: none"> <li>○電子カルテを導入することのメリットを、VTRや自作資料から考えさせる。</li> <li>○児童の意見を、働く側と患者側の視点で整理して板書する。</li> <li>○「価格や費用」の視点から、電子カルテの導入の理由について考えさせる。</li> </ul> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin: 10px 0;">           このようなメリットがあるが、本当に〇〇円もかけて行う必要があるのだろうか。         </div> <ul style="list-style-type: none"> <li>○全国や広島県において医師不足が課題となっていることを示す資料から、医師不足などの課題がある中で、少ない人数でよりよい治療を行おうとする病院側の工夫や努力を捉えさせる。</li> </ul>	
6. 学習課題に対する自分の考えをまとめる。	<div style="border: 1px solid black; padding: 5px;">           〇〇病院では、少ない人数でよりよい治療を行うために電子カルテを導入していることが分かりました。私たちが、画像などを見ながら医者の説明を受けることができるので安心して治療を受けることができていると思いました。         </div>	病院では、少ない人数でよりよい治療を行うために、電子カルテを導入していることを考えることができる。 (発言、ノート)

#### 4 別の事象を取り上げて再構成する事例（第6時）

本時のねらいは、「東広島市の取組や災害の発生状況を踏まえて、自分たちがどのように情報ネットワークを活用していけばよいのかを考えることができる。」と設定する。

導入では、前時の学習を想起させ、情報ネットワークを活用することの良さをおさえる。その後、災害時の情報ネットワークの活用例として茨城県大洗町を取り上げ、防災行政無線の仕組みや良さについて紹介する。そして、防災行政無線は良いシステムなのに、なぜ、東広島市はその無線を廃止し新しいシステムを取り入れるのかという認知的不協和を生

じさせる問いを用いて、児童の意欲を喚起させ、学習課題を設定する。

展開では、自作資料から東広島市の新しいシステムの良さを捉えさせる。「価格や費用」の視点を取り上げ、東広島市がコスト面も考えながら、市民の安全な生活を守るために工夫や努力をしていることを捉えさせる。

終末では、東広島市の工夫や努力を受けて、地域に住む一員として、自分たちがどのように情報活用していけばよいのかを考えさせていく。表3に第6時の授業構成を示す。

表3 第6時「東広島市の防災ネットワーク」の授業構成

学習活動	指導上の留意事項	評価規準 (評価方法)
1. 防災ネットワークについて知る。  2. 東広島市の防災ネットワークについて知る。	○前時までに学習した医療分野における情報ネットワークについて振り返り、東日本大震災時の茨城県大洗町の写真から、災害時の情報ネットワークについて考えさせる。 <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin: 5px 0;">             このような災害が起きた時にも、情報ネットワークが活用されているのだろうか。           </div> ○茨城県大洗町を事例として取り上げ、防災行政無線の仕組みや良さについて紹介する。  ○緊急告知ラジオを提示し、東広島市が新しいシステムとしてFM放送を活用したシステムを導入したことを紹介する。	
<div style="border: 1px solid black; padding: 5px; display: inline-block;"> <b>学習課題</b>              なぜ、東広島市では、今までの防災行政無線を廃止し、新しいシステムを導入したのだろうか。           </div>		
3. 学習課題に対する自分の考えを書く。  4. 東広島市の防災ネットワークについて、資料から調べ、話し合う。  5. 防災ネットワークをどのように活用していけばよいのかについて話し合う。	○新旧のシステムを比較し、新しいシステムのメリットやデメリットを捉えさせる。 ○「価格や費用」の視点を取り上げ、東広島市がコストも考えながら、市民の安全な生活を守るために工夫や努力をしていることを捉えさせる。  ○緊急告知ラジオの良さを紹介し、普及率の低さを伝える。 <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin: 5px 0;">             なぜ、緊急告知ラジオの普及率が低いのだろうか。           </div> ○東広島市で、緊急告知ラジオの普及率が低い理由について考えさせる。 ○大洗町の事例を再度取り上げ、被災した場合のデメリットについて考えさせる。 ○地域に住む一員として、自分たちがどのように情報活用していけばよいのかを考えさせる。  <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin: 5px 0;">             私たちは、どのように防災ネットワークを活用すればよいのだろうか。           </div>	

<p>6. 学習課題に対する自分の考えをまとめる。</p>	<p>東広島市では、どこでも、すぐに避難できるように新しい防災ネットワークがつけられた。 しかし、災害はいつ起こるか分からない。私たちは、自分の命を自分で守るために、情報ネットワークを活用して必要な情報を得ることができるように準備をしなければならない。</p>	<p>東広島市の取組や災害の発生状況を踏まえて、自分たちがどのように情報ネットワークを活用していけばよいのかを考えることができる。 (発言, ノート)</p>
-------------------------------	--	---

## V 授業の結果と考察

本研究で開発した再構成する学習を取り入れた単元における第4時と第6時の授業の結果と考察について述べる。「社会的見方や考え方を深めることができたか」という点について、授業後の児童のノートから考察する。

### 1 社会的な見方や考え方は深めることができたか

#### (1) 第4時の授業分析

本時では、「電子カルテを導入するには多くの費用がかかるのに、なぜ、〇〇病院では、電子カルテを導入しているのだろうか」を学習課題に設定し、予想したことを踏まえて、資料などを用いて課題解決を図った。課題に対する予想と終末部での振り返りで児童が記述したものを分析し、主な記述を集計したものが表4である。

表4 児童が記述したキーワードと人数

項目	人数	
	予想	振り返り
電子カルテの良さに関する記述	30	32
価格や費用に関する記述	10	13
社会的背景に関する記述	0	7

表4に示すように、予想では、「診察の分かりやすさ」や「待ち時間の短縮」など、電子カルテの良さを捉えた記述が多い。また、学習課題に多くの費用がかかることを取り上げているため、価格や費用に関する記述も10名いる。しかし、その記述内容を見ると、「紙カルテの紙も使えば使うほどお金がかかる。」といった内容であり、事実を的確に捉えたものではない。

終末部の振り返りでは、予想と同様に、電子カルテの良さに着目した記述や価格や費用に関する記述が多い。価格や費用に関する記述を見ると、「電子カルテには良いところがたくさんあるので、多くの

費用をかけても効果がある。」といった内容が増えており、費用対効果について考えていることが分かる。

社会的背景に関する記述について、予想の段階では0名だったが、振り返りの段階では7名となっている。医師不足など医療業界がかかえる課題について言及するなど、様々な角度から多面的に捉えた記述が増えている。

このことから、新たな見方を示し再構成する学習を通して、児童の解釈が高められ、社会的な見方や考え方が深まったといえる。変容が大きい児童の記述を以下に示す。

(予想)
・画像を見ることができるので分かりやすいから。
・待ち時間が短くなるから。
(振り返り)
・電子カルテを導入することで、分かりやすく安心できる治療をすることができるから。また、医師が不足している中でも、少ない人数で準備や治療ができるので良いと思いました。

#### ノートに書かれた予想と振り返り

予想では、「画面を見ることができるので分かりやすいから」や「待ち時間が短くなるから」といった電子カルテの良さだけを捉えた記述であった。しかし、振り返りでは、「医師が不足する中でも、少ない人数で準備や治療ができる。」というように、これまで見えなかった社会が見えるようになり、より深い見方や考え方ができるようになっていることが分かる。

新たな見方を与えることで、目に見える社会的事象の様子や事実だけでなく、社会的事象の意味についても考えることができるようになったと推察することができる。

これらのことから、新しい見方を示し再構成する学習は、社会的な見方や考え方を深めることにつながる事が分かった。

## (2) 第6時の授業分析

本時では、「なぜ、東広島市では、今までの防災行政無線を廃止し、新しいシステムを導入したのだろうか。」を学習課題に設定し、予想したことを踏まえて、資料などを用いて課題解決を図った。第4時と同様に、課題に対する予想と終末部での振り返りで児童が記述したものを分析し、主な記述を集計したものが表5である。

表5 児童が記述したキーワードと人数

項目	人数	
	予想	振り返り
新システムの良さに関する記述	33	36
価格や費用に関する記述	3	3
社会参画に関する記述	0	33

表5に示すように、予想では、これまでの学習で身に付けた見方や考え方を活かして、「ラジオだと、いつでも聞くことができるから」「遠くまで届くからどこでも聞くことができるから」など、新システムの良さを捉えた記述が多い。価格や費用に関する記述もあるが、導入で価格や費用に関する情報が提示されていないため、記述は少ない。

終末部の振り返りでは、予想と同様に、新システムの良さを捉えた記述が多くなっている。

社会参画に関する記述について、予想の段階では0名だったが、振り返りの段階では33名となっている。授業の中で、「価格や費用」の視点を取り上げ、東広島市がコスト面を考えながら市民の安全な生活を守ろうと工夫や努力をしていることを捉えたり、災害に対して万全なシステムはないことに気付いたりする中で、行政側の努力や工夫だけでは解決できない問題があることを捉え、自分も地域に住む一員としてできることをしなければならないと考えようになったと推察することができる。後に示したノートに書かれた予想と振り返りを見ると、予想の段階では、前時までの学習で身に付けた見方や考え方をういて、「遠くまで届くからどこでも聞くことができるから。」という記述にとどまっていた。しかし、学習を進めるうちに、行政の取組ですべてを解決できる問題ではないことに気づき、自分から進んで関わっていかうとする記述となっている。

身に付けた見方や考え方をういて別を事例について考える中で、解決できない問題があることに気づき、その問題に対応する策を考えるうちに、社会

的事象の意味を捉え、身に付けた社会的な見方や考え方が深化したと推察することができる。

(予想)

- ・(新しいシステムだと)遠くまで届くからどこでも聞くことができるから。

(振り返り)

- ・東広島市は、どの家庭にもすぐ情報を伝えられるように新しいシステムにしたことが分かった。私たちは、いつ地震などの災害が起こるか分からないので、常に情報を見たり聞いたりすることができるようにしたい。

ノートに書かれた予想と振り返り

これらのことから、別の事例を取り上げて再構成する学習は、子供が身に付けた社会的な見方や考え方の修正、深化につながるということが分かった。

## VI 成果と課題

### 1 研究の成果

○新たな見方を示し再構成する学習では、「価格や費用」といった経済的視点を示すことで、児童の社会的な見方や考え方が深まり、児童は、これまで見えていなかった社会背景を踏まえた病院側の工夫や努力を捉えることができた。

○別の事象を取り上げて再構成する学習では、医療情報ネットワークで身に付けた社会的な見方や考え方をういて、別の事象である防災情報ネットワークを見ることで、防災情報ネットワークの良さだけでなく、課題も捉え、そこから地域に住む一員として、どのようなことに取り組むべきかを考えることができた。

以上のことから、本研究によって再構成する学習を取り入れた学習過程モデルは、児童の見方や考え方を深めるのに有効であることを明らかにすることができた。

### 2 研究の課題

○社会的な見方や考え方をよりよい社会の形成に参画する資質や能力の基礎と位置付け、よりよい社会の形成に向かう方向が求められている。本單元においては、第6時における実践のねらいにつながるものであるが、1時間の授業で児童の見方や考え方が深められたとは言いきれない。本单元の実践を踏まえ、今後も单元開発を

進めていく必要がある。

○本研究では、小学校第5学年「情報化した社会の様子」単元を取り上げて授業構成の開発を行った。今後も社会的な見方や考え方を養うために、他単元においても再構成する学習を取り入れた授業構成の開発について研究を継続していく必要がある。

最後に、本研究の推進にあたり、終始丁寧な御指導、御助言をいただいた安田女子大学心理学部片上宗二教授に謹んで感謝の意を表す。また、本研究に御理解、御協力いただいた研究協力員及び研究協力校の皆様に、心から感謝申し上げます。

### 【注】

- (1) 大杉昭英（平成12年）：「各教科等の改善／充実の視点 公民『政治・経済』の改善（4）」『中等教育資料 平成12年5月号』大日本図書 p.47 に詳しい。
- (2) 拙稿（平成23年）：『広島県立教育センター平成23年度前期教員長期研修論文』pp.65-73 を参照のこと。

### 【引用文献】

- 1) 中央教育審議会（平成20年）：「幼稚園，小学校，中学校，高等学校及び特別支援学校の学習指導要領等の改善について（答申）」 p.79
- 2) 中央教育審議会（平成20年）：前掲書 p.80
- 3) 文部科学省（平成20年）：『中学校学習指導要領解説 社会編』日本文教出版 p.93
- 4) 岩田一彦（2001）：『社会科固有の授業理論・30 の提言－総合的な学習との関係を明確にする視点－』明治図書 p.31
- 5) 文部科学省（平成20年）：『小学校学習指導要領解説 社会編』日本文教出版 p.106
- 6) 北俊夫・片上宗二編著（2008）：『小学校新学習指導要領の展開』明治図書 p.32
- 7) 森分孝治（1984）：『現代社会科授業理論』明治図書 p.76

### 【参考文献】

- 森分孝治（1978）：『社会科授業構成の理論と方法』明治図書